

大河津分水路

★ 堤防強化（浸透対策）

掘削土活用

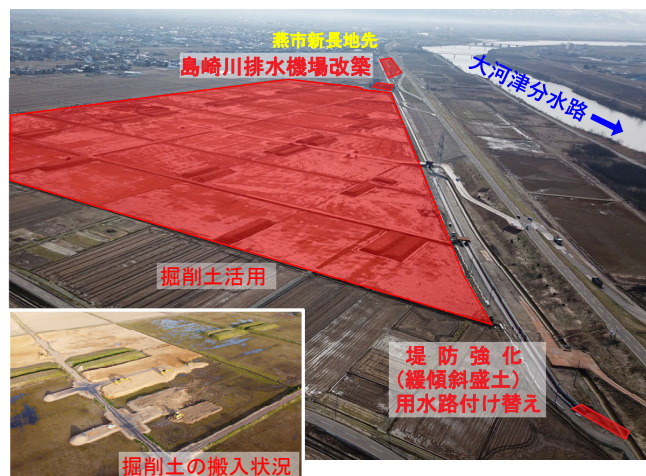
② 燕市新長地先等（大河津分水路右岸、分水西部地区）

③ 長岡市寺泊新長地先（大河津分水路左岸）

令和元年東日本台風（台風第19号）では、大河津分水路で観測史上最高水位を観測し、高い水位が長時間続いたことにより、堤防が危険な状態となったことから、堤防の安全性を向上させるため、堤防強化（浸透対策）を前年に引き続き実施し、今年度の早期の完成を図ります。

このうち、右岸堤防では盛土により堤防の断面を拡大し、勾配を緩やかにすることにより、左岸堤防では堤防本体の一部を良質な土砂に置き換えることにより、それぞれ堤防を強化します。なお、堤防強化には左右岸ともに大河津分水路「令和の大改修」の掘削土を有効活用します。

また、右岸堤防と隣接した分水西部地区では「令和の大改修」の掘削土の有効活用先として、ほ場整備事業（盤上げ）を実施するとともに、ほ場整備事業に関連して島崎川排水機場の改築を引き続き進め、早期の完成を図ります。



大河津分水路

堤防強化

④ 燕市野中才地先、長岡市寺泊北曾根地先

J R越後線信濃川分水橋梁付近の左右岸の堤防の高さが低くなっている箇所において、洪水による堤防の決壊を防止するため、関係機関等と連携しながら堤防強化対策を実施します。



J R越後線信濃川分水橋梁の橋桁まで達した出水の状況 (R元年台風第19号時)



水防活動の状況（右岸側） (R元年台風第19号時)

大河津分水路

堤防強化（侵食対策）

⑤ 燕市五千石地先、長岡市寺泊敦ヶ曾根地先

気候変動に伴い激甚化・頻発化する自然災害を踏まえ、流域治水対策を推進するため、重点的・集中的に河道掘削及び水衝部対策（低水護岸等設置・高水敷造成）を実施し、早期に地域の安全性の向上を図ります。

